



JP1250759

Biblio Page 1

esp@cenet

**AUTOMATIC APPARATUS FOR CHEMICAL ANALYSIS**

Patent Number: JP1250759
Publication date: 1989-10-05
Inventor(s): YANAI SHINICHI
Applicant(s):: TOSHIBA CORP
Requested Patent: ☐ JP1250759
Application Number: JP19880076032 19880331
Priority Number(s):
IPC Classification: G01N35/02
EC Classification:
Equivalents: JP2597638B2

Abstract

PURPOSE: To enable the setting of sample tubes at random in a rotary table, by storing the time whereat the sample tubes are set in the rotary table, and by moving the sample tubes to a sampling position in the sequence wherein the tubes set earlier are moved earlier.

CONSTITUTION: When a sample rack 4 holding sample tubes 5 is set at random in a time of stoppage of a rotary table 3, the time of the setting is stored in CPU 12 through a rack detecting sensor 11. When a driving element 2 is operated in this state, a control element 10 controls the driving element 2 so as to forward fast the table 3 so that the rack 4 set earliest be moved to a sampling position on the basis of the data stored in the CPU 12. The rack 4 which is moved to the sampling position and of which sampling is completed is moved to a position off the sampling position by an operation of forwarding fast a rack 4 set earliest secondly. Accordingly, it is possible to take the former rack 4 away from the table 4 at that position in the time of stoppage of the table and to set a rack 4 to be sampled subsequently in said vacant position.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-250759

⑤ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成1年(1989)10月5日

G 01 N 35/02

Z-6923-2G

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全6頁)

⑥ 発明の名称 自動化学分析装置

⑦ 特 願 昭63-76032

⑧ 出 願 昭63(1988)3月31日

⑨ 発 明 者 柳 井 伸 一 栃木県大田原市下石上1385番の1 株式会社東芝那須工場内

⑩ 出 願 人 株 式 会 社 東 芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

⑪ 代 理 人 弁理士 則近 憲佑 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

自動化学分析装置

2. 特許請求の範囲

(1) 円形の回転テーブルに複数のサンプルをセットし、所望の回転停止位置でサンプルを反応部に移送して試薬を反応させた後この反応液内の特定成分の濃度を測定する自動化学分析装置において、回転テーブルを正方向又は逆方向に回転可能な駆動手段と、回転テーブルに順次セットされるサンプルの各セット時刻を記憶する記憶手段と、サンプルをセット時刻の早い順に最短距離でサンプリング位置に移動させるように前記駆動手段を制御する制御手段とを備えたことを特徴とする自動化学分析装置。

(2) サンプルがサンプル管に満たされこのサンプル管がサンプルラックに収納された状態で回転テーブルにセットされる請求項1記載の自動化学分析装置。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

(産業上の利用分野)

本発明は、サンプルに試薬を反応させてこの反応液内の特定成分の濃度を測定する自動化学分析装置に関する。

(従来の技術)

人体の血清等を対象としてこれをサンプル(試料)として用い、これに所望の試薬を加えて化学反応を起こさせてこの反応液内の特定成分の濃度を例えば比色法により測定して診断に供するようにした自動化学分析装置が知られている。この分析装置は大別して分析すべきサンプルを保持し所定のタイミングでこれを外部にサンプリングするサンプラ部と、サンプリングされたサンプルを希釈して移送するサンプル希釈移送部と、希釈されたサンプルに所望の試薬を反応させて化学分析を行う反応部とから構成されている。

第5図はこの分析装置のサンプラ部の構成を示す概略平面図で、サンプラ部1はモータを内蔵する駆動部2の周囲に回転テーブル3が設けられ、

回転テーブル3にはこの円周面3aに沿って複数のサンプルラック4がセット可能になっている。サンプルラック4は回転テーブル3の外側から所定位置Pでその長さ方向が円周面3aに略直交する向きにセットされ、これには所望のサンプルが満たされたサンプル管5が複数例えば5本収納されている。この場合セットされるサンプルラック4は予めまとまった数量のものが用意されて、測定したい順に順番が決められて連続的に回転テーブル3にセットされるように構成されている。

サンプル管5としては、最近では患者から直接血液を採取した後、遠心分離法により血清を上澄液となして保持している真空採血管が用いられ、第6図のように複数まとめてサンプルラック4の収納部4aに収納される。各サンプル管5(5a, 5b, 5c, ...)には各サンプルのIDを示すバーコードラベル6が設けられ、いわゆる検体ID方式が採用されている。また、各サンプルラック4にもラックIDを示すバーコードラベル7が設けられている。このような検体ID方式によれば

各サンプル管を確実管理することができ検体取扱ミスの防止及び測定合理化等の利点を得ることができる。

回転テーブル3は一定のサイクルで回転運動を行ってサンプルラック4を順次1ピッチずつ一定の方向に例えば矢印のような時計方向に移動させる。サイクルタイムはサンプル管5の数量等に応じて決定される。回転テーブル3の周囲の所定位置にはIDリーダ8が設けられ、これに接近してサンプルラック4は図示しない取出し機構によって一時的に外側に取出されることにより、各サンプル管5のバーコードラベル6からサンプルのバーコードが読取られる。読取り後はサンプルラック4は再び回転テーブル3の元の位置に戻される。また、サンプルラック4のバーコードも読取られる。IDリーダ8に隣接して前後に移動可能なサンプル分注ノズル9が設けられ、サンプルラック4のサンプル管5から測定に必要な量のサンプルが吸引(サンプリング)されて、サンプル希釈移送部に移送される。

このように所定位置Pから回転テーブル3に測定したい順に順番が決められて連続的にセットされたサンプルラック4は、IDリーダ8によってサンプルラック4及びサンプル管5のバーコードが読取られた後、所定位置でサンプル分注ノズル9によってサンプル管5からサンプルのサンプリングが行われてサンプル希釈移送部へ移送され、さらに反応部へ移送されて化学分析が行われることになる。尚、サンプルラック4の回転テーブル3へのセット及びサンプル分注ノズル9によるサンプリングは各サイクルの回転テーブル3の停止期間中に行われる。

(発明が解決しようとする課題)

ところで従来の分析装置では、回転テーブルにサンプルラックをセットする場合サンプルラックは予めまとまった数量が用意されて、測定したい順に順番が決められて連続的にセットされるように構成されているので、測定効率が悪いという問題がある。例えばサンプルラックの数量が或る一定の数量に達しなければこの数量に達するまで

待たされるようになり、また順番が決められてセットされるので、後の順番のものを勝手に先の位置にセットするようなことは不可能である。

本発明は以上のような事情に対処して成されたもので、サンプルをランダムに回転テーブルにセット可能にして測定効率を向上するようにした自動化学分析装置のサンプル移送装置を提供することを目的とするものである。

[発明の構成]

(課題を解決するための手段)

上記目的を達成するために本発明は、正方向又は逆方向に回転可能な回転テーブルを設け、回転テーブルにセットされるサンプルの各セット時刻を記憶させ、セット時刻の早い順に最短距離でサンプルをサンプリング位置に移動させるようにしたものである。

(作用)

正方向又は逆方向に回転可能な回転テーブルにセットされるサンプルは全てそのセット時刻が記憶され、各サンプルは順次そのセット時刻の早

い順に正方向又は逆方向に回転されることにより最短距離でサンプリング位置に移動される。従ってサンプルはまとまった数値が用意されなくとも測定が必要になったものを順次回転テーブルにランダムにセットすることができ、セットされた順にサンプリングが行われるので測定効率を向上することができる。

(実施例)

第1図は本発明の自動化学分析装置の実施例を示す斜視図で、特にサンブラ部1の構成を示しており、モータを内蔵する駆動部2は回転テーブル3を正方向又は逆方向に回転可能に構成され、制御部10によってその動作が制御される。サンプル管5を複数例えば5本収納するサンプルラック4が回転テーブル3に例えばその上方向からセットされ、そのセット位置は空き位置にランダムに選択可能になっている。駆動部2の周囲にはサンプルラック4のセットの有無を検出するラック検出センサ11が設けられ、セットされるサンプルラック4の数に対応した複数が設けられている。

って各サンプル管5からサンプリングが行われて、サンプル希釈移送部の希釈管にサンプルの分注が行われる。バーコードの読取り及びサンプリングが終了したサンプルラック4は再び回転テーブル3の元の位置に戻される。前記サンプリングは1つのサンプルにつき例えば6秒が費され、5つのサンプルでは30秒が費されることになる。このサンプリングは回転テーブル3の各サイクルの停止期間に行われるで、回転テーブル3の停止時間は一例として30秒が設定される。

或るサンプルラック4のサンプリングが終了すると、次のサンプルラック4がサンプリング位置に早送りされて同様なサンプリングが行われる。このようにサンプリング位置に早送りされるサンプルラック4の順序は、回転テーブル3にセットされた時刻によって決定され、これはCPU12の制御の基に駆動部2によって回転テーブル3を正方向又は逆方向に回転させてサンプルラック4を最短距離でサンプリング位置に移動させるように行われる。

サンプルラック4が回転テーブル3の或る位置にセットされると対応したラック検出センサ11によってセット有と検出され、この検出信号は中央演算装置(CPU)12に送られてその記憶部にセット時刻が記憶される。このセット時刻の記憶はサンプルラック4がセットされることに行われ、CPU12は常に複数のサンプルラック4をセット時刻の早い順番に整理して記憶している。回転テーブル3は駆動部2及び制御部10によって制御されて早送り(正方向又は逆方向)と停止から成る1サイクルを単位として、サンプルラック4を順次サンプリング位置に移動させる。

回転テーブル3の周囲の所望位置にはIDリーダー8が設けられ、これに隣接してサンプル分注ノズル9が設けられている。各サイクルの早送りでこの所望位置に移動されたサンプルラック4は図示しない取出し機構によって一時的に回転テーブル3の外側に取出され、IDリーダー8によって各サンプル管5と共にサンプルラック4のバーコードが読取られる。次にサンプル分注ノズル9によ

例えば第2図のように3個のサンプルラック4a、4b、4cが各々時刻の早い順に4b、4c、4aの順序でセットされたものとする。①、②、③は時刻の早い順を示している。この状態で回転テーブル3は①であるサンプルラック4bを最初にサンプリング位置Spに対して最短距離で移動すべく、矢印のように正方向(時計方向とする)に回転する。第3図(a)はこのようにしてサンプルラック4bがサンプリング位置Spに移動された配置を示している。次に、回転テーブル3はこの(a)の配置状態から②であるサンプルラック4cをサンプリング位置Spに対して最短距離で移動すべく、矢印のように正方向に回転する。第3図(b)は、このようにしてサンプルラック4cがサンプリング位置Spに移動された配置を示している。続いて回転テーブル3は(b)の配置状態から③であるサンプルラック4aをサンプリング位置Spに対して最短距離で移動すべく、矢印のように逆方向(反時計方向とする)に回転する。第3図(c)はこのようにしてサンパ

ラック4 aがサンプリング位置S_Pに移動された配置を示している。

このようにしてサンプリング位置S_Pに案内され、サンプリングが終了したサンプルラック4は回転テーブル3の停止期間中に外に取出される。またこのようにして空いた位置には測定すべき(サンプリングすべき)他のサンプルラック4がランダムに次々にセットされる。動作予知ランプ15はこのようにサンプルラック4の取外し又はセットの操作を行う場合に、操作可能時間であることを表示するためのもので安全に操作が行われるように、回転テーブル3の停止期間である前記30秒のうち例えば前後の5秒を除いた20秒が設定される。

また駆動部2の上面にはサンプリング前後表示ランプ16が設けられ、対応したサンプルラック4のサンプリングが終了したか否かを表示し例えば終了したときは点灯するようになっている。これによって回転テーブル3にランダムにセットされたサンプルラックがサンプリングの前か後かを

析を行う。

次に本実施例の作用を説明する。

回転テーブル3の停止期間中にサンプルラック4がランダムにセットされると、各サンプルラック4のセット時刻がCPU12に記憶される。この状態で回転テーブル3を駆動部2によって回転させると、制御部10はCPU12に記憶されているデータを基に最も早いセット時刻のサンプルラック4をサンプリング位置に最短距離で移動させるように、回転テーブル3を正方向又は逆方向に回転して早送りすべく駆動部2を制御する。サンプリング位置に移動されサンプリングが終了したそのサンプルラックは、次のサイクルにおける2番目に早いセット時刻のサンプルラック4の早送りによってサンプリング位置から外れた位置に移動する。よってこの位置でこのサンプルラック4を回転テーブル3からこの停止時間中に取出し、次にサンプリングすべきサンプルラック4をこの空いた位置にセットすることができる。また最初から回転テーブル3に空き位置がある場合にはこ

確認することができる。またサンプルラック4に対応してコントロールスイッチ17が設けられ、このスイッチ17を操作することにより回転テーブル3の動作を停止させることができる。これは特にその位置にセットすべきサンプルラック4があった場合に用いられ、この位置にサンプルラック4をセットすることにより、これがラック検出センサ11によって検出されて回転テーブル3は動作を開始する。

サンプル分注ノズル9によってサンプリングされたサンプルは、第4図に示すようにサンプル希釈移送部13の希釈管14(14a, 14b, 14c, ...)に分注された状態で矢印方向に移動される。希釈機構18によって所望倍率の希釈が行われたサンプルは、前後に移動可能なサンプル分注ノズル19によって所望の希釈管14から測定に必要な量のサンプリングが行われて、反応部20の反応セル21に移送される。反応部20ではサンプルに所望の試薬を反応させることにより、この反応液内の特定成分の濃度を測定して化学分

れらの位置にセットすることができる。このようにサンプリング終了後のサンプルラック4の取出し又は新しくサンプリングすべきサンプルラック4のセットは、回転テーブル3の停止期間中動作予知ランプ15の点灯を確認することにより安全な操作を行うことができる。

以下、このような動作が繰返されセットされたサンプルラック4はセット時刻の早い順にサンプリングが行われることになる。

このように本実施例によれば、セット時刻の早い順にサンプルを最短距離でサンプリング位置に移動させることができるので、回転テーブル3にセットすべきサンプルラックはランダムに回転テーブル3にセットすることができる。よって従来のように予めまとまった数量が用意されなくて数量が少ない場合でも順々にセットすることができ、また飛び飛びに不連続的に任意位置にセットしてもよいので測定したい順番を決めて連続的にセットするような煩わしさは不要となる。従ってセットされた順にサンプリングが行われるので測定効

率を向上することができ、

尚、実施例はサンプルラックに収納した状態で回転テーブルにセットする例で説明したが、サンプルラックは必ずしも必要ではなくサンプルを単独でセットすることもできる。

〔発明の効果〕

以上述べたように本発明によれば、サンプルを回転テーブルにセットした順に次々とサンプリングを行うようにしたので、測定効率を向上させることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図及び第4図は本発明の自動化学分析装置の実施例を示す斜視図、第2図及び第3図(a)乃至(c)は本実施例装置の作用の説明図、第5図は従来例を示す概略平面図、第6図はサンプル部に用いられるサンプルラック及びサンプル管を示す斜視図である。

- 1…サンブラ部、 2…駆動部、
3…回転テーブル、 4…サンプルラック、
5…サンプル管、 8…I Dリーダ、

10...制御部 2...中央演算装置(CPU)、

15…動作予知クランプ、

16…サンプル前後表示ランプ。

代理人 弁理士 則 近 憲 佑
同 近 藤 猛



